

東北の国土は私たちが守っていく

# 東測協活動報告

vol.13

令和8年1月

Tohoku Survey & Planning General inc.Association Activity Report



最上川峡芭蕉ライン舟下り

最上川の流りに身をまかせ船上からの景色を楽しみます

## CONTENTS

- ・会長挨拶
- ・令和7年度 現場研修会報告
- ・令和7年度 東北地方整備局・各県事務所長との意見交換会
- ・令和7年度 講習会報告
- ・参議院議員見坂茂範氏 顧問就任
- ・令和7年度 補償業務講習会報告
- ・国交行政功労者(災害対策)表彰
- ・補償コン東北支部との意見交換会
- ・令和7年度 災害復旧・災害防止事業功労者表彰
- ・令和6年度 労働事故事例報告
- ・令和7年度 災害・危機管理セミナー報告
- ・創立40周年記念誌 発刊
- ・編集後記

## 私達の理念

東北に根ざし、地域に責任を持ち、期待される協会



一般社団法人 東北測量設計協会

Tohoku Survey & Planning General Inc.Association



## 東北の国土と未来は私たちが守る

一般社団法人 東北測量設計協会

会長 菊池 透

新年あけましておめでとうございます。本年も会員各位をはじめ多くの皆様にとりまして、平穏かつ安心して生活できる一年となりますよう、謹んで祈念申し上げます。

昨年は東北各地において多様な災害が発生いたしました。青森県においては、令和6年末からの寒波の影響により記録的な大雪となり、青森市では積雪が130cmを超えるなど、交通障害、停電、住宅被害が発生いたしました。これを受け、青森県は12年ぶりに「豪雪対策本部」を設置し、県内10市町村に災害救助法を適用するとともに、青森河川国道事務所と連携し「豪雪対策に関する連絡調整会議」を開催し、除雪支援及び情報共有体制の強化を図ったところであります。

また、2月には岩手県大船渡市において山林火災が発生し、焼失面積は3,370haに及び、平成以降最大規模となりました。乾燥した気象条件下、強風により延焼が拡大し、陸上自衛隊による災害派遣及びヘリコプターによる消火活動も実施されましたが、住宅200棟以上が焼失し、鎮火まで40日を要しました。広大な焼失面積により地表が露出したことから、降雨時の土砂災害発生が懸念され、砂防ダム建設等の対策が急務となっております。

地震に関しては、1月に日向灘地震が発生し宮崎港などで津波が観測されました。さらに7月にはカムチャッカ半島の地震により津波警報が発令され、太平洋沿岸に緊張が走りました。加えて、トカラ列島近海や三陸沖において群発地震が発生しております。

8月には秋田県において線状降水帯の影響による豪雨が発生し、仙北市では24時間雨量253.5mmを観測、桧木内川が氾濫し、住宅浸水、農作物被害、交通障害が発生いたしました。田沢湖高原では230mm、青森県十和田市では243mmを観測し、いずれも観測史上最大値を更新いたしました。秋田県では4年連続の豪雨災害となり、地域住民の心身への影響も甚大であると推察されます。

このように災害は多様化しており、危機管理は企業にとって至上命題であると同時に、地域にとっても最大の課題であると言えます。

東北地方は依然として自然災害に脆弱であり、特に豪雨災害への備えが喫緊の課題であります。本年度の補正予算においては、第一次国土強靱化実施中期計画の初年度分として1兆2,346億円が計上され、昨年度比1.35倍の増額となっております。国土強靱化に向け、早期に強化策を講じ、災害に強い東北の構築を強く望むものであります。

また、技術者の確保は年々困難を極めております。技術承継に関しては、承継可能な人材自体が不足しており、採用活動においても人材獲得競争が激化しております。新3Kを掲げ、測量設計業界の魅力向上に努めておりますが、土木系学生数の減少は依然として大きな課題であります。

今後の業界の展望としては、DX及びAIを活用した業務遂行が不可欠であり、採用活動においても多様性を重視する必要があります。短期的視点にとどまらず、長期的展望に立脚し、技術継承のため新たな方策を講じ、人材育成に取り組むことが求められます。

(一社)東北測量設計協会は「東北の国土は我々が守る」を合言葉に、激甚化・頻発化する災害に真正面から対峙し、各種新技術をもって対応してまいります。技術を継承しつつ新領域を取り込み、未来へとつながる業界を形成していかなくてはなりません。

東北の地を守る我々の活動は、地域にとって不可欠な存在であり、その使命は決して失われることはありません。今後も強い決意をもって、この地域を守り抜いてまいりましょう。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

# 令和7年度 東北地方整備局及び 各県事務所長との意見交換会を開催

総務委員長 鵜沼順之

本年度の意見交換会については、7/30東北地方整備局、10/7宮城県（東北技術事務所）、10/23 岩手県（二戸地方合同庁舎）、11/26山形県（山形河川国道事務所）12/3青森県（青森河川国道事務所）、12/18福島県（磐城国道事務所）、（秋田県内は大雨災害対応で中止）と、東北地方整備局及び東北5県の事務所長と意見交換をさせていただきました。

要望事項としては、

- (1) 公共インフラの整備と担い手の確保・育成について
- (2) 地域の守り手としての地域コンサルタントの活用について
- (3) 建設DXの推進について

の3つのテーマについて取り纏めたものとしております。

技術者単価の引上げについては感謝申し上げるところですが、直轄当初予算配分が伸びないなか、より実質事業量が減少している状況であり、当初予算の拡充をお願いするとともに、中長期的一般会計予算の確保と着実な執行をお願いしました。

また、働き方改革に伴う配慮として発注・納期の分散化、フレックス工期の設定、業務におけるスライド条項の適用及び地域の担い手としての地域コン

サルタントの受注額割合の一定量の確保のお願い等もしております。

こちらについては、一部の県を除き、前年に比べ、それなりの実績を得ております。

災害対応については、昨年引き続き要望項目と致しました。

災害対応に係る業務成績評定にあたっては通常業務と切り離れた、緊急災害対応独自の業務成績評定の運用を要望しました。

また、災害業務対応による一般業務の遅延に対する対応としての既往業務の工期延期、災害時の現地における積極的な情報共有及び能登半島地震TEC-FORCE支援の際の経験を踏まえ、今後に活かすための情報交換、反省点の共有化等について要望しました。

最後に、建設DXの推進として、BIM/CIM適用業務の適切な費用経費の計上、工期の確保及びBIM/CIMモデル事例集の作成について要望しました。

整備局及び各事務所からは、当方の意見・要望内容につきましても一定のご理解をいただき、全ての要望に対して丁寧にご回答をいただきました。

今後も我々地域コンサルタントの活用についてご理解賜ることが出来るよう進めて参りたいと考えております。



### 東測協と整備局が意見交換

## 地域コンサルへ20%超発注を 調査基準価格引上げ訴え

東北地方整備局と東北地方整備局の各県事務所長が、仙台市にある東測協の会場で意見交換会を開催した。協議内容は、地域の守り手としての地域コンサルタントの活用、建設DXの推進、災害対応の強化などについて。協議は、地域の守り手としての地域コンサルタントの活用、建設DXの推進、災害対応の強化などについて。協議は、地域の守り手としての地域コンサルタントの活用、建設DXの推進、災害対応の強化などについて。

意見交換は、緊急災害対応の強化、地域の守り手としての地域コンサルタントの活用、建設DXの推進、災害対応の強化などについて。協議は、地域の守り手としての地域コンサルタントの活用、建設DXの推進、災害対応の強化などについて。

協議は、地域の守り手としての地域コンサルタントの活用、建設DXの推進、災害対応の強化などについて。協議は、地域の守り手としての地域コンサルタントの活用、建設DXの推進、災害対応の強化などについて。

## 参議院議員見坂茂範氏 顧問就任

令和7年9月16日、東京都参議院議員会館に赴き、第27回参議院通常選挙で当選しました見坂茂範氏に当協会の顧問就任のお願いをいたしました。

当協会役員と建設業界に関する情報交換などを行い、顧問就任については快く引き受けていただきました。

見坂茂範顧問には、今後ともご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

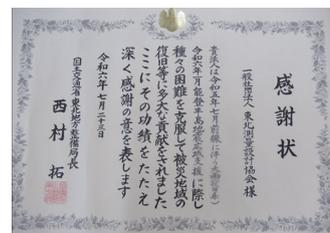


## 国土交通行政関係功労者（災害対策功労者）表彰

令和7年7月16日、東北地方整備局は、建設事業関係功労者、優良業務施行者、災害対策功労者など国土交通行政関係功労者表彰を行いました。

（一社）東北測量設計協会は、「令和6年7月前線に伴う大雨（秋田県・山形県）及び令和6年9月能登半島大雨広域派遣に基づく要請に応じ、被災状況調査等を実施する業者の推薦を行い、管理区間内外での被災状況調査を支援し、TEC-FORCEの後方支援等を行うなど、早期復旧に貢献した。」ということで、災害対策功労者表彰を受けました。

また、実際にTEC-FORCEに同行した12社の会員につきましても、災害対策功労者表彰を受けました。



### 【功労者】

（一社）東北測量設計協会 新和設計(株) (株)アースデザインコンサルタンツ (株)キタコン (株)ダイワ技術サービス 陸奥テックコンサルタント(株) (株)エヌティーコンサルタント (株)東北エンジニアリング (株)サトー技建 (株)開成測量設計 (株)復建技術コンサルタント (株)東開技術 (株)三協技術

## 令和7年度災害復旧及び災害防止事業功労者表彰を受彰

（公社）全国防災協会（会長 脇 雅史）は、令和7年11月10日、「令和7年度災害復旧促進全国大会」を開催し、災害復旧促進に関する決議を行ったほか、災害復旧及び災害防止事業功労者への表彰を行いました。

当協会は、令和6年7月秋田・山形県内

大雨及び令和9年能登半島地方豪雨のTEC-FORCE支援の災害対策功労として、令和5年度以降3年連続で、災害復旧功労者表彰を受彰、受賞式は砂防会館別館（東京都）で行われ、伊藤副会長が出席いたしました。



## 令和7年度災害・ 危機管理セミナー (TEC技術系) のご報告

(Ⅰ期)株アースデザインコンサルタンツ

(Ⅱ期)昭和技術設計(株)

東北地方整備局では、頻発する地震や風水害等の自然災害に対し、整備局の防災担当者として災害対応の基礎知識を備え、担当者自らが現地で機体を飛行させることを目的とした「災害・危機管理セミナー (TEC技術系)」を実施しております。

災害業務を担当する職員の方を対象として、東北地方整備局災害対策マネジメント室より講師依頼をいただき、UAVに関する座学と操作実習の講師を担当しましたのでご報告いたします。



セミナーは、(Ⅰ期)7月22日～25日、(Ⅱ期)11月25日～28日の4日間にわたり開催され、当協会は「UAVの災害時活用と関係法令」、「災害時におけるUAV撮影写真データの有効活用」、「実地演習 (UAV操作基礎編)」をテーマに、講義と実習を担当いたしました。

講義では、東北測量設計協会の役割や取り組み、災害協定について紹介し、安全管理に必要な法令知識として、航空法や小型無人機飛行禁止法、さらに新たな制度である操縦ライセンス・機体認証制度や、無人航空機に関する規制の運用における解釈、操縦者としての心得、実機を用いた飛行前点検などについて説明しました。

実習では、Ⅰ期は、受講者を3班に分け、トイドローンを用いた実地演習を行いました。今回は、移動時の奥行きをよりスムーズに操作できる「モード2」を使い基本的な操作方法や動きを学んでいただきました。



Ⅱ期は、より実践的な研修を目指し、2班に分かれ、実機を使用しながら、プロペラの歪み確認やバッテリー取り付けなど飛行前点検、ホバリングや前後左右飛行、バッテリーの発熱確認やプロペラのキズ確認など飛行後点検の実地演習をしました。

また、限られた時間の中で、斜め飛行や対面飛行、8の字ラダー飛行などに挑戦するなど積極的にUAVの操作を行っていただきました。



初めてUAVを操作する受講生もいて、緊張の中でも飛行前点検から飛行、飛行後点検まで一連の流れを一つひとつ確認しながら、操縦者としての自覚を持ち真剣に受講していただきました。

今後も東北測量設計協会を通じて、災害時に速やかな対応ができる人材育成にご協力できればと考えております。

## 令和7年度現場研修会の報告

技術委員会

令和7年度現場研修会は、9月17日、山形県内の国道13号真室川雄勝道路新及位トンネル工事現場視察を目的として開催されました。

最初に現場事務所において山形河川国道事務所建設専門官菅原様から、事業概要及び雪に強い道路ネットワーク構想、地域産業支援などの整備効果について説明いただきました。

続いて大成建設(株)監理技術者登山様から、トンネル掘削方法（NATM工法）や防水工・覆工の施工状況、さらには安全管理体制等について説明頂きました。

その後、トンネル工事現場内を案内いただき工事状況を確認いたしました。

当日は、日頃の業務ではなかなか体験できないスケール感や工事施工状況を直接確認することが出来、大変有意義で貴重な研修会となりました。

今後の業務においても今回の現場研修会で得られた知見を活かしていきたいと思えます。



### 【トンネル工事概要】

当工事は、一般国道13号真室川雄勝道路整備事業の一環として、山形県最上郡真室川町大字及位においてトンネルを建設する工事です。

NATM 内空断面積=90㎡ 延長1,148m W=14m

### 【地質概要】

当該トンネル周辺は、南沢溶結凝灰岩部を基盤岩とし、溪床沿いならびに急崖の斜面尻には、第四紀の扇状地性堆積物、崖錐堆積物が基盤岩を覆って分布しています。また、西側の朴木沢川沿いには、南北に延びる主寝坂断層が分布し、「羽前金山」 図幅によれば、主寝坂断層は概ねNNE走行で西に急傾斜する多数の分岐した小断層を伴うとされています。



### 【トンネル工事現場】

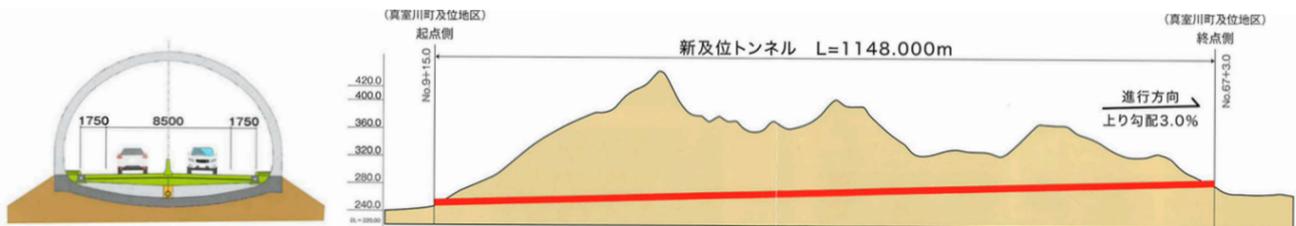
トンネル工事現場は、普段なかなか見ることのできない迫力ある施工の様子を間近に体験することができ、大変興味深く感じました。巨大な機械や現場独自の緊張感に圧倒されるとともに、安全を最優先に作業が進められていることがよく理解できました。限られた空間の中で効率的かつ安全に作業を遂行するための工夫や、作業員の皆様の高度な技術・チームワークに深い感銘を受けました。特に印象に残った点は以下のとおりです。

- ①掘削作業：ドリルジャンボと呼ばれる大型機械と火薬を用いて岩を砕き、土砂をトンネル外へ搬出。その後、鉄骨やコンクリートで壁を補強する作業を繰り返し行っていました。
- ②換気システム：工事で発生する粉塵から作業員を守るため、天井に設置された大口径パイプで新鮮な外気をトンネル内に送り込み、徹底した換気が実施

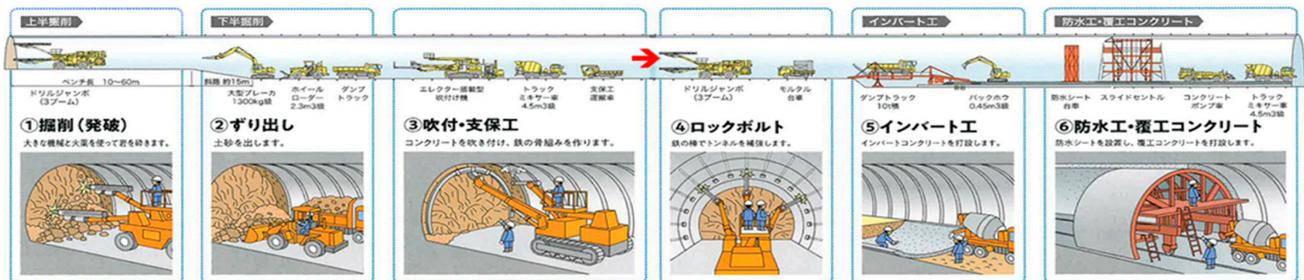


されていました。

- ③**最新技術の活用**：AIや自動操縦の導入、プロジェクションマッピングによる地質状況の共有、SLAM技術（自己位置推定技術）を利用した自動運転など、安全性と精度を高めるために先端技術が積極的に取り入れられていました。
- ④**熱中症対策**：水分・塩分補給のための多様な商品が用意されており、中でも作業員の方々にはアイス菓子「ガリガリ君」が特に人気とのことでした。



〈トンネル施工次第図〉



本年度の現場研修会は、山形県最上郡真室川町に位置する国道13号真室川雄勝道路「新及位トンネル」の施工現場を視察先として開催いたしました。当日は朝から激しい雨が降り、足元の状況が懸念されましたが、見学開始の頃には幸いにも雨が上がり、参加者全員が安全かつ快適に現場を視察することができました。

施工現場では、地質が当初の想定よりもはるかに固く、掘削に必要な発破用火薬の量が倍増したことから、騒音対策をはじめとする安全管理面でのご苦労についてご説明をいただきました。このような厳しい現場の実態を直接目の当たりにすることで、NATM工法による掘削や防水工・覆工の施工状況、安全管理体制について、机上の知識だけでは得られない貴重な理解を深めることができました。

ご多忙の中、丁寧なご案内とご説明を賜りました山形河川国道事務所 菅原建設専門官様、大成建設株式会社 監理技術者 登山様をはじめ、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

今後も技術委員会として、会員の皆様の実務に役立つテーマを積極的に取り上げ、現場の「今」を体感できる研修機会の企画に努めてまいります。引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 令和7年度講習会報告

技術委員会

技術委員会では、当協会の肝である「技術力の向上」のための講習会等実施により会員の資質向上・資格取得へ繋げる事業展開を行っております。

令和7年度は関係機関の方々のご協力により下記講習会等を行いました。

平成30年度からスタートした東北6県で開催される東北土木技術人材育成協議会では、7年目を迎え、「ICT・UAV基礎技術講習会」において、「3次元測量の概要と留意点」についての講義を担当しております。

当協会が主催する「総合評価及び品質向上に関する講習会」及び「技術士試験基礎対策講習会」については、講師のご支援を受け、リモート講習会として開催し、多数の会員の皆様から受講頂きました。

## ●総合評価及び品質向上に関する講習会

- ・令和7年9月26日（リモート講習） 28社74名参加
- ・講義内容及び講師（㈱復建技術コンサルタント）
  - 1) 総合評価落札方式における評価ポイントについて  
営業部 営業情報課長 佐藤 雅士 氏
  - 2) 設計上の留意点  
～設計のミス事例と配慮するポイント～  
技術管理部 副部长 平野 至史 氏
  - 3) 災害事例を参考にした設計上の留意点  
調査防災部 副部长 村上 智明 氏

## ●インフラDX講習会

- ・令和7年10月27日 22社39名
- ・講義内容及び講師
  - 1) インフラ分野のDXの取組について  
東北地方整備局建設情報・施工高度化技術調整官  
平舘 淳一 氏
  - 2) R6みちのくインフラDX奨励賞受賞者の取組事例紹介  
～一般国道121号外百子沢橋外橋梁点検・診断業務委託～  
新和設計㈱ 設計第二課長 安達 和也 氏



3) 国土交通省PLATEAU事業の最新動向と東北地域への展開

(株)パスコ東北事業部技術センター国土情報部  
地理情報1課長 鈴木 英文 氏

## ●技術士試験基礎対策講習会

- ・令和7年11月27日
- ・リモート講習 15社31名参加
- ・講義内容及び講師  
技術士試験受験対策について  
(株)5 Doors' 代表取締役 堀 与志男 氏

## ●ICT・UAV基礎技術講習会 (東北土木技術人材育成協議会)

- ・令和7年9月16日～10月24日
- ・講師：青森県会場 (株)キタコン 高山 宏 氏  
岩手県会場 (株)アースデザインコンサルタント 小野寺應治 氏  
宮城県会場 (株)サトー技建 岩本 春男 氏  
秋田県会場 (株)眞宮技術 細田 薫 氏  
山形県会場 (株)双葉建設コンサルタント 豊岡 雅巳 氏  
福島県会場 昭和技術設計㈱ 上遠野 輝 氏



今年度においても、2つの講習会をリモートで開催し、多数の会員に受講いただきました。

また、国土交通省のBIM/CIM原則適用が4年目を迎えた中、東北地方整備局などから講師を招き、インフラDX講習会を開催し、インフラ分野のDXの取り組み等について学びました。

今後も会員のために何とか有意義な講習会を企画していく所存ですので、皆様のご支援、ご協力の程よろしく願いたします。

# 令和7年度補償業務に関する講習会報告

補償業務委員会

## ●補償実務講習会

東北地方整備局管内用地業務について、起業者のよきパートナーとして公共事業を円滑に進めるための知識の習得並びに技術の研鑽を目的とし開催しました。

また、浅利用地調整官様には、講話のあと補償業務委員会に所属する会員と働き方改革に伴う配慮、総合評価方式等について情報交換を行いました。

・令和7年5月28日 15社25名参加

・講義内容及び講師

- |            |                |       |         |
|------------|----------------|-------|---------|
| 1) 講話      | 東北地方整備局用地部     | 用地調整官 | 浅利 博光 氏 |
| 2) 土地評価の理論 | (株)建設相互測地社     | 総合補償士 | 斉藤 博実 氏 |
| 3) 土地評価の実務 | 東日本エンジニアリング(株) | 総合補償士 | 藤原貴美夫 氏 |



## ●補償業務管理士講習会

公共用地取得においては補償業務に携わるうえで補償業務管理士の資格が必要です。この資格は、土地調査、土地評価、物件、機械工作物、営業特殊補償、事業損失、補償関連、総合補償と8部門で構成されています。各部門の資格を取得するための第一歩として共通試験があり、この共通科目試験の対策として補償業務管理士講習会を実施しております。

毎年公表される共通試験の出題傾向に合わせて、各講師の方々が想定の問題を作成して解説を行いこの講習会を受講された方々が一人でも多く合格し、補償業務従事者の拡大を図る事を目的とした講習会となっております。

・令和7年8月27日~28日 21社33名参加

・講義内容及び講師

- |                         |              |         |         |
|-------------------------|--------------|---------|---------|
| 1) 用地事務概論及び損失補償の法理と補償制度 | (株)桑折コンサルタント | 補償業務管理士 | 岩淵 浩一 氏 |
| 2) 一般補償基準               | 柴田工事調査(株)    | 補償業務管理士 | 杉井 孝次 氏 |
| 3) 不動産に関する行政法規          | エイト技術(株)     | 補償業務管理士 | 佐々木政明 氏 |
| 4) 用地調査等共通仕様書等          | (株)庄内測量設計舎   | 補償業務管理士 | 大宮 達徳 氏 |
| 5) 土地収用法                | 東邦技術(株)      | 補償業務管理士 | 佐々木 隆 氏 |
| 6) 公共補償基準               | (株)田村測量設計事務所 | 補償業務管理士 | 鈴木 政志 氏 |



## (一社) 補償コン東北支部と意見交換会開催

補償業務委員長 阿部 忠 弘

当協会実施の研修・講習会について、補償コン東北支部との調整を図る事を目的とし、令和7年9月10日宮城県管工事会館に於いて補償コン東北支部長ほか2名、東測協菊池会長ほか7名の出席のもと令和7年度意見交換会が開催されました。

議題として、東測協講習会、補償コン東北支部の事業等についての報告があり、受講者の拡大（WEB配信講習）等について意見交換が行われました。

また、補償コン東北支部から補償業務管理士の研修及び筆記試験の受講要件の緩和等について情報提供がありました。



# 令和6年度 労働事故事例報告

技術委員会

毎年会員の皆様には労働事故に関するアンケート調査を実施しており、今年度は95%の回答を頂きました。今回の調査においても死亡事故の発生はなく、日頃から重大事故発生への安全管理が徹底されているものと思われます。また、負傷事故、物損事故件数は前年度と横ばいであることから、今後も会員皆様のより一層の労働災害防止の啓発と取組みをお願いいたします。

(負傷・物損事故件数/R5=33件・R6=33件)

## 【負傷事故/R5=13件・R6=13件】

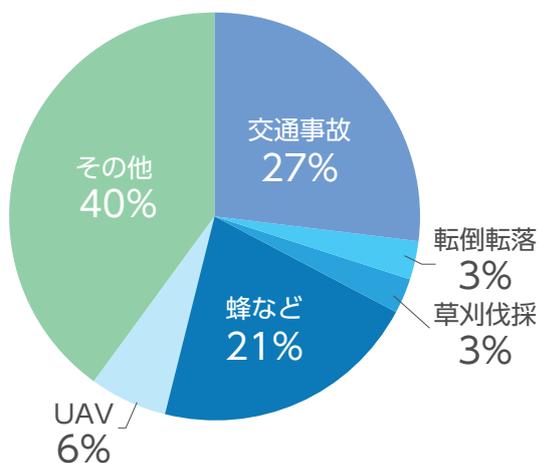
今回の調査では、昨年最も多かった転倒転落による負傷事故が9件から1件と激減した一方、昨年度3件発生した蜂などによる負傷が7件と大きく増加しました。その他の事例も4件と多く、柵を跳び越えようとして負傷したなど、不注意の事例が多いようです。引き続き、会員皆様の労働災害防止の啓発をお願いいたします。

## 【物損事故/R5=20件・R6=20件】

前年度と比較して交通事故の件数は3件減少した一方で、その他の物損事故が4件増加しました。

また、UAV事故も昨年0件に対し2件発生しました。事故防止の意識を持って細心の注意を払いながら、業務の遂行をお願いいたします。

## 【負傷・物損事故合計の構成割合】

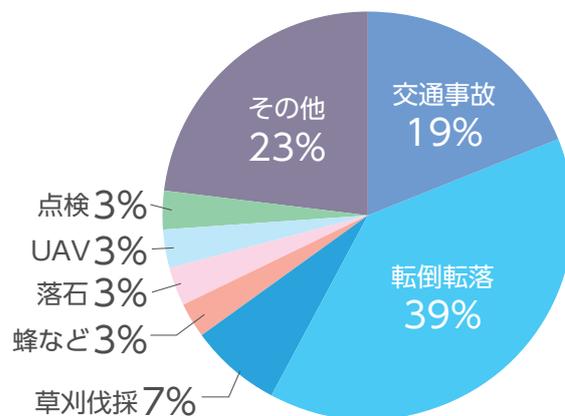


## 【ヒヤリハット/R5=26件・R6=31件】

ヒヤリハットとは、事故に至る可能性があった出来事の「発見」です。今回の調査では前回よりも多い31件の報告がありました。内容として、転倒転落次いで交通事故が多く報告されています。最も多い転倒転落は、不注意や不安全行動が要因のようです。その他の事例の中には熱中症症状が見られました。対策が法令化されたこともあり、猛暑に備えた対策が必要です。

ヒヤリハットは日頃のKY活動で防ぐ事が出来ることから、些細なヒヤリハットを見逃さずにしっかりと対策する事で、重大な事故を未然に防ぐ事ができます。会員皆様の職場での周知徹底を引き続きよろしくお願いいたします。

## 【ヒヤリハットの構成割合】



## 【終わりに/労働災害防止のために】

従業員の安全確保、適正な会社経営のためにも労働災害の防止は事業者の責務です。

災害防止対策の一例として、

- 労働安全衛生法の順守(危険防止の措置)
- 自主的な安全衛生活動(ヒヤリハット)
- リスクアセスメントに基づく取り組みがあります。

日頃から労働災害が起きないように対策に努めることが極めて重要です。今後も会員相互の意識の共有化に努め、軽微な事例でも大きな事故を未然に防ぐための抑制効果手段として情報を提供していきたいと思っております。

# 創立四十周年記念誌を発刊

総務委員会

一般社団法人東北測量設計協会は、昭和60年5月に東北測量技術協会として設立されました。その後、昭和62年11月に東北測量設計協会へと改称し、平成24年3月に一般社団法人へ移行し、令和7年5月、創立四十周年を迎えました。

当協会の創立四十周年を契機に各位のご協力のもと、令和7年11月、記念誌として発刊いたしましたので、「40th創立四十周年記念誌」からご報告致します。

## 沿革

昭和60年 5月21日	東北測量技術協会創立
昭和62年11月21日	名称を東北測量設計協会に改称
平成 4年 7月15日	第44回国土建設週間に優良団体として東北地方建設局長表彰
平成 8年 5月21日	東北地方建設局と災害応急対策業務に関する協定締結
平成 9年 5月15日	労働災害事故事例集発行
平成11年 3月23日	安全衛生マニュアル(共通・道路編)発行
平成13年 7月27日	東北地方整備局と災害応急対策業務に関する協定締結
平成14年 9月20日	安全衛生マニュアル(山地・急傾斜地編、その他特殊状況編)発行
平成16年 3月12日	東北地方整備局と災害応急対策業務に関する協定再締結
平成22年 7月 1日	協会事務局移転
平成23年 7月23日~ 平成23年 7月26日	災害見舞金寄付(青森県、岩手県、宮城県、福島県)
平成23年10月28日	東北地方整備局へ東日本大震災の復旧に関わる「緊急要望」提出
平成24年 3月26日	一般社団法人 東北測量設計協会設立

◆ 令和7年5月16日、東北地方整備局長西村拓様を講師に迎え、記念講演を開催いたしました。記念講演会終了後、記念祝賀会を開催、冒頭に功労者表彰を行い、会長あいさつ、来賓祝辞の後、補償コン東北支部長田村道雄様の乾杯で祝宴となりました。

## 創立四十周年記念講演会



菅原 稔郎 副会長 あいさつ



「東北地方の目指す将来像」について  
東北地方整備局長 西村 拓 様からご講演



◆ 東測協では1年おきに「経営者研修会」と「現場研修会」を開催しております。

## 現場研修会

### 令和7年 山形県新及位トンネル



## 経営者研修会

### 令和6年 南海トラフ地震防災対策施設視察(高知県)



◆ 10年後は創立50周年。その時我々東測協にはどんな景色が見えるのでしょうか。まずは直近10年を振り返り、そのうえで将来像について思いをはせ、今後、協会で出来るミッションを適時展開していく必要を再認識した90分でした。

## 座談会

### 10年後 ～50周年を目指した未来予測～



**日時** 2025年8月26日(火) 協会事務局にて  
**場所** 協会事務局にて  
**参加者** 菊池会長・伊藤副会長・山内企画委員長  
加藤技術委員長・安孫子企画委員長  
田村総務委員・安孫子総務委員  
岩村事務局長  
**進行・編集** 鶴沼総務委員長

なお、「創立四十周年記念誌」は、東測協ホームページから電子ブックでご覧いただけます。

東測協ホームページは  
こちらからアクセスできます



🌸 本年もよろしくお願いいたします

会 長	菊 池 透	(株)アースデザインコンサルタンツ
副 会 長	菅 原 稔 郎	(株)復建技術コンサルタント
副 会 長	伊 藤 清 郷	陸奥テックコンサルタント(株)
副 会 長	海 藤 剛	(株)双葉建設コンサルタント
総務委員長	鵜 沼 順 之	(株)ウヌマ地域総研
企画委員長	山 内 一 晃	エイコウコンサルタンツ(株)
技術委員長	加 藤 一 也	(株)サト一技建
補償業務委員長	阿 部 忠 宏	(株)東日本エンジニアリング
理 事	石 塚 三 雄	東 邦 技 術 (株)
理 事	森 井 淳 司	(株) 東 建 工 営
理 事	間 山 昭	(株) み ち の く 計 画
理 事	鈴 木 誠 弥	(株) 東 開 技 術
理 事	安孫子 文 剛	(株)寒河江測量設計事務所
監 事	高 橋 郁	(株) 三 協 技 術
監 事	湯 澤 洋 一 郎	新 和 設 計 (株)



編 集 後 記

皆様のご協力のもと東測協活動報告Vol.13を発行することとなりました。関係いただいた皆様には心から感謝申し上げます。今回の号では年頭のあいさつをはじめ半年の事業を掲載しております。また、創立四十周年記念誌発刊についても触れております。皆様一読していただければと思います。企画委員会では今後も会員各位に役に立つ事業や情報発信をしていくため委員一同努力してまいります。皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願いいたします。

企画委員長 山内 一晃



お問い合わせは

一般社団法人 東北測量設計協会

〒980-0014

宮城県仙台市青葉区本町3丁目6-17 (勾当台本町ビル6F)

TEL.022-263-0922 FAX.022-263-1744

E-mail info@tospa.org

公式HP <https://tospa.org/>



Access Map



令和8年1月発行